

三原市避難行動要支援者避難支援プラン 避難支援の事例集



令和4年3月

三 原 市

避難支援団体のみなさまへ

日頃から、避難行動要支援者避難支援事業にご理解、ご協力を賜りまして、ありがとうございます。

三原市では、令和3年度に国の個別避難計画作成モデル事業としまして、小坂町防災会をモデル地域に「防災と福祉との連携による避難行動要支援者の避難支援体制づくり」を実施しました。また、他の地域でもさまざまな避難支援の取組が行われています。

個別避難計画作成をはじめとする避難支援の事例をまとめましたので、参考にさせていただけたらと思います。

【目次】

個別避難計画について . . . P2

防災と福祉との連携による個別避難計画の作成について . . . P9

個別避難計画作成の手順 . . . P10

小坂町防災会（国モデル事業） . . . P11

高坂町防災会（避難支援ネットワーク会議） . . . P13

三原ダイヤハイツ自主防災会（要介護の人の避難支援） . . . P15

避難支援の優先順位の考え方 . . . P17

避難支援のためのチェックリスト . . . P19

防災と福祉が連携して避難支援を検討することで、安心・安全のまちづくりを目指します。

個別避難計画について

個別避難計画とは

災害時の避難に支援が必要な人が安全に避難できるよう、一人ひとりについて必要な事項をまとめた計画です。掲載する内容は次のとおりです。

- 避難行動要支援者の住所、氏名等の情報
- 避難支援等実施者の氏名（個人名のほか自主防災組織、町内会名でも構いません）
- 避難所及び避難経路に関する事項
- その他避難に関して必要な事項

個別避難計画を作る人

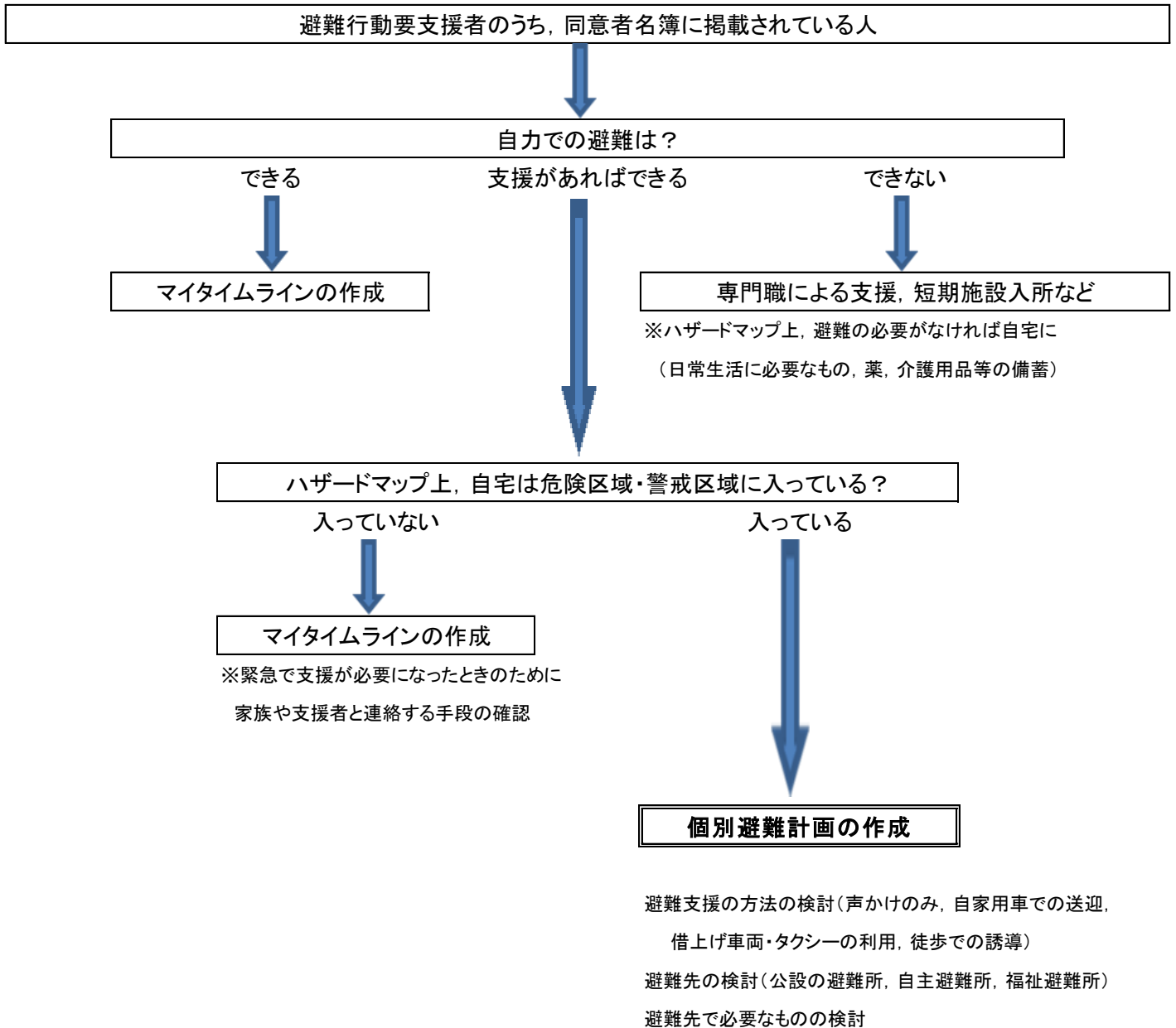
個別避難計画は、避難行動要支援者一人ひとりについて作成します。
作成の支援も様々なパターンが想定されます。

- 避難行動要支援者本人や家族が作成・・・自分の災害への備えとして
マイ・タイムライン、防災チェックシートなど
- 地域（住民自治組織、自主防災組織）で作成・・・地域の避難支援体制づくりとして
個別避難計画（必要に応じて地域にあった様式に変更）
- ケアマネジャー等の福祉専門職が作成・・・福祉サービスの調整等、災害時の対応を
まとめておくため
サービス計画書に記載
- 地域と福祉専門職が連携して作成・・・地域の避難支援体制を福祉専門職と共有するため
福祉サービスでの対応を地域に伝えるため

本人や地域の状況にあわせて、実効性のある個別避難計画を作成しましょう。

【参考】個別避難計画作成のフローチャート

小坂町防災会で国モデル事業に取り組むときに、対象者選定に使ったフローチャートです。地域で作成する人の選定や、作成する計画の参考にしてください。



個別避難計画について、様式に決まりはありませんが、次のページから様式例を紹介しています。避難に必要な事項が記載されていれば、使いやすいように変更していただいて構いません。

三原市避難行動要支援者避難支援プラン(個別避難計画)

令和 ○年 ○月 ○日

私は、三原市避難行動要支援者避難支援制度の趣旨を理解し、個別避難計画の作成に同意します。

この個別避難計画について、三原市及び避難支援等関係者が所持すること、またこの情報が、平常時の避難訓練と災害時の避難誘導に活用されることを承諾します。

私は、災害時の避難支援について、避難支援等関係者にその責任を問いません。

要支援者の署名(本人) 三原 花子 代理人署名 三原 市郎
(要支援者との続柄 子)

ふりがな	みはら はなこ			性別
要支援者氏名	三原 花子			男・ <input checked="" type="radio"/> 女
住所	〒 723-0000 三原市 港町三丁目5番1号			
電話・FAX	電話	0848-00-0000	FAX	0848-00-0000
生年月日	明・大・ <input checked="" type="radio"/> 昭・平・令 ○○年 1 月 1 日生 (80) 歳			
区分	ふりがな 氏名	住所	電話番号	
地域で関わりのあるひと①	ほんごう いちこ 本郷 一子	三原市港町三丁目○番○号	自宅：0848-00-0000 携帯：090-0000-0000	
地域で関わりのあるひと②	くい つぎお 久井 二男	三原市港町三丁目○番○号	自宅：0848-00-0000 携帯：	
地域で関わりのあるひと③	だいわ さぶろう 大和 三郎	三原市港町三丁目○番○号	自宅：0848-00-0000 携帯：090-0000-0000	
避難支援等 関係者 (自主防災会等)	○○自主防災会		代表者又は班長等 防災 太郎 連絡先：0848-00-0000	
緊急 連絡先	ふりがな 氏名	みはら いちろう 三原 市郎	本人との関係	子
	電話	0848-00-0000	携帯	080-0000-0000
避難場所	○○集会所(浸水のおそれがあるときは●●小学校)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ●●○内科の●●○先生が主治医。心臓の薬を飲んでいる。 ○▲居宅介護支援事業所の△△ケアマネジャーが担当。 			

【お願い】

この計画は地域の人達の共助によって作成されます。

個別避難計画を作成することによって、災害時の支援を保証するものではありません。

記載内容に変更があった場合は、速やかに三原市又は避難支援等関係者に申し出てください。

【特記事項（避難支援で配慮すること）】

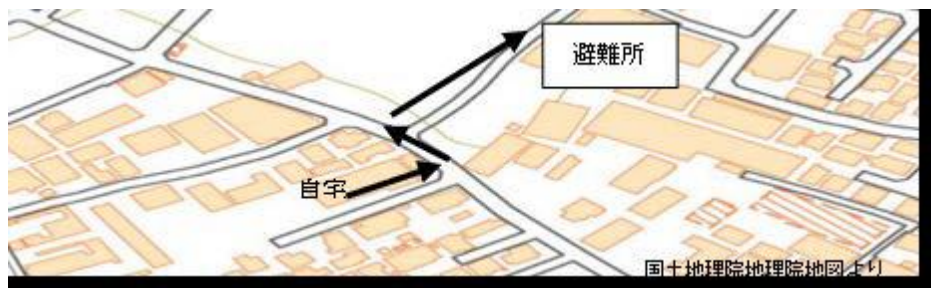
- ・歩くときは杖が必要。
- ・長い距離を歩くのは難しい。

このほか、個別避難計画に記載するものの例

- 家族構成
- 居住建物の情報（木造，平屋，家具固定の有無 など）
- 見取り図（普段いる場所，寝る場所，玄関の他の出入り口 など）
- 緊急通報システムの有無

【避難の留意事項（ハザードの状況，避難経路等）】

- ・避難所は自宅から徒歩 10 分
- ・本人が 10 分歩くのは難しいので，近隣の人が車で避難所に行くときに乗せてもらう。
- ・自宅より東は土地が低く，浸水の可能性があるので，西寄りの道を通っていく。



防災チェックシート（風水害時）

令和 ○年 ○月 ○日

ふりがな	みはら はなこ			性別
氏名	三原 花子			男 ・ <input checked="" type="radio"/> 女
住所	〒723-0000 三原市 港町三丁目5番1号			世帯人数 1人
電話・FAX	電話	0848-00-0000	FAX	0848-00-0000
生年月日	明・大・ <input checked="" type="radio"/> 昭・平・令 ○○年 1月 1日生（80）歳			
必要な支援	なし・車椅子・筆談・ <input type="checkbox"/> 誘導・その他（ ）			

自宅の災害リスク	<input type="checkbox"/> 土砂災害・洪水・高潮・津波・その他（ ）
災害のおそれがあるときの行動	自宅2階 ・ 親戚宅（ ） ・ 避難所（ ○○集会所 ） ショートステイ等施設（△△ホーム）・その他（ ）
緊急連絡先	三原 市郎（子） 0848-00-0000（日中は仕事しています） 本郷 花子（妹） 090-0000-0000（夜間は外出できません）
地域で関わりのある人	久井 一子 0848-00-0000（サロンに一緒に行っています） 大和 二男 090-0000-0000（隣の畑によく来ています）
必ず持ち出すもの （常備薬等）	血圧の薬 老眼鏡
関わりのある専門職 （主治医・ケアマネ等）	△▲医院 ●●居宅介護支援事業所（○●ケアマネジャー）
備考	

この内容を避難支援等関係者、福祉専門職、行政等と共有し、平常時の避難訓練と災害時の避難支援等に活用されることを承諾します。また、災害時の避難支援について、避難支援等関係者にその責任を問いません。

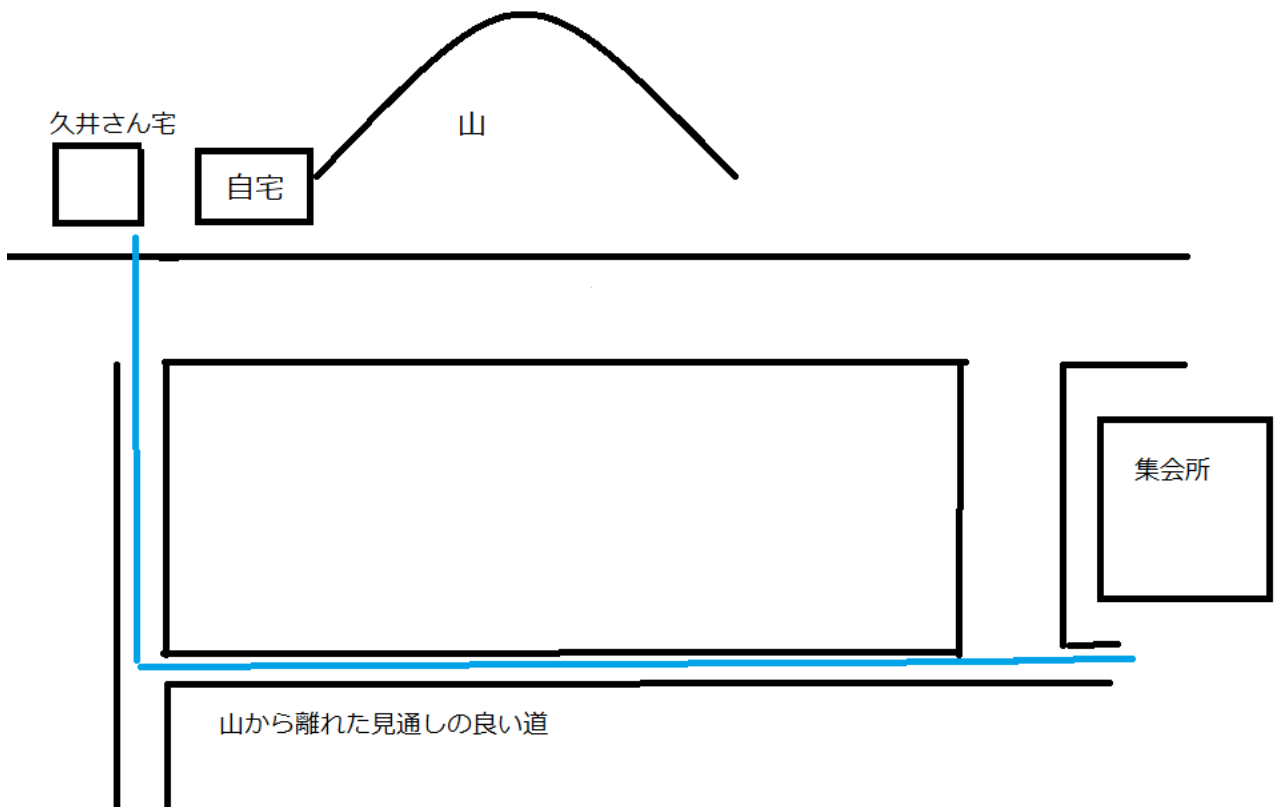
署名 _____ 代理人署名 _____（続柄： _____）

【特記事項（避難支援で配慮すること）】

- ・大雨が予測されるときは、普段からショートステイで利用している△△ホームに行く予定です。
- ・△△ホームが利用できないときは、いつもサロンで行っている〇〇集会所に避難します。
- ・避難するときは、久井一子さんの家族の車に乗せてもらうようお願いしています。

【避難の留意事項（ハザードの状況、避難経路等）】

- ・家の玄関前の山が土砂崩れのおそれがあります。
- ・高齢者等避難が発令されたら早めに避難します。
- ・念のため、勝手口から避難できるように、非常持出袋と履きなれた靴は勝手口に置いています。
- ・山から離れれば安全なので、見通しの良い道を通って避難します。



防災と福祉との連携による個別避難計画の作成について

個別避難計画については、様々な人の支援による作成が想定されますが、要介護高齢者や障害のある人で福祉サービスを利用されている人については、地域の防災関係者と福祉の専門職とが連携して作成することが有効とされています。

それぞれの強みを活かして本人に働きかけることで、実効性のある個別避難計画が作成できます。

専門職の強み

- 日頃から高齢者と関わりがあり、心身の状態を把握している
- 家の場所や中の様子を知っている
- 本人・家族との信頼関係も厚い



地域（防災会）の強み

- 災害時など、いざというとき近くにいる
- 昔からの関わりがある
- 避難所運営や町内会活動をしている

さまざまな人や団体に関わることで、防災意識の向上や避難の促進につながります。

専門職で支援すること

- 福祉サービスの調整
(災害時に短期の施設入所や入院をする場合、施設や病院への手続きを行う)
- 家族やキーパーソンへの連絡
- 日頃からの災害の備えについての呼びかけ

地域（防災会）で支援すること

- 避難情報が出たことを知らせる
- 自主避難所の運営、災害対策本部への連絡
- 一緒に避難する
- 平常時の防災訓練の実施

個別避難計画作成の手順（防災と福祉との連携）

防災会（地域）と福祉専門職が対象者を同行訪問し、聞き取りを行い、作成します。

福祉専門職と協力して確認を

- ① 本人の状態確認
避難するとき、どの程度支援が必要か。
家族や介護サービスにより支援できる部分はどこか。

地域みなさんで考えてみましょう

- ② 自宅の状況確認
自宅が警戒区域、浸水想定区域に入っていないか。
避難する場合、自宅周辺に気をつける場所はないか。

- ③ 災害時の行動の確認
避難所への避難、ホテル等宿泊施設の利用、
介護サービスの利用や入院、親戚・知人宅など。
自宅に留まる場合でも、自宅内での対策を確認。

情報共有することについて、同意したら、署名してもらいます

- ④ 必要な支援の確認
声かけの体制はあるか、誰と一緒に避難所に行くか、
避難所へ行く手段は、など。

- ⑤ 個別避難計画に記入して、関係者で共有

- ⑥ 避難訓練で検証し、必要に応じて修正

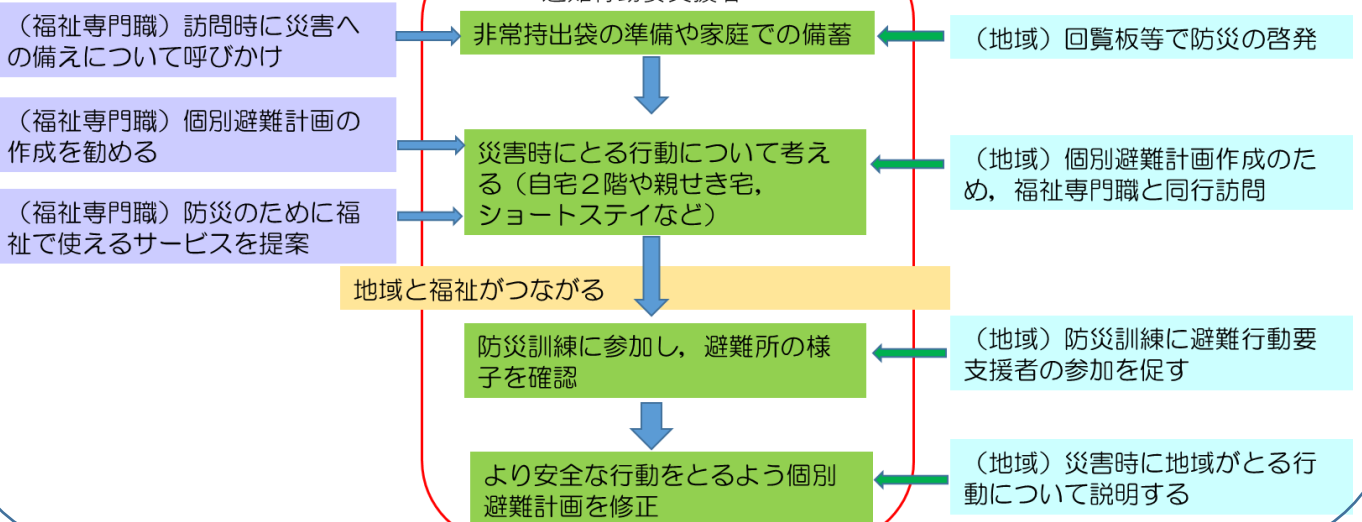


避難行動要支援者への働きかけのプロセス

- ・本人や家族にとって負担にならないよう、できそうと思えることから避難行動を考えます。
- ・少しずつ、より安全な避難行動につながるよう、繰り返し働きかけます。



避難行動要支援者



小坂町防災会（国モデル事業）

小坂町防災会をモデル地域として、防災会、福祉専門職から選定された避難行動要支援者20名の個別避難計画作成に取り組みました。



- 福祉専門職と民生委員、防災会で対象者の個別訪問し、聞き取りを実施。

（聞き取りの内容）

今までの災害時の避難、非常持出袋など備えの状況、
飲んでいる薬があるか、地域で関わりのある人はいるか、など

- 訪問後に聞き取りの振り返りと地域と専門職との情報共有、避難方法の検討を行いました。
- 聞き取った内容とその後検討した結果をもとに、個別避難計画を作成しました。



作成した個別避難計画に沿って、避難訓練を実施しました。

- 小坂町防災会の防災訓練で実施。
- 個別避難計画を作成した対象者は、民生委員や防災会の人と一緒に避難しました。



三原慶雲寮にご協力いただき、福祉避難所への避難を想定した訓練を行いました。



【実際に作成した個別避難計画に記載した特記事項の例】

個別避難計画の裏面の自由記載欄に、災害時の行動や注意することなどを書きました。

Aさん（85歳男性） 大雨になりそうなときは、自主防災会の声かけで沼北小学校へ

Bさん（92歳女性） 自宅の山から遠い部屋で寝る
避難するときは、自主防災会の支援で沼北小学校へ

Cさん（90歳男性） ○○さんに声かけしてもらって、妻と一緒に沼北小学校へ
本人は耳が遠く、妻は左目が見えない
将来的には福祉サービス利用となる可能性がある

Dさん（83歳女性） ①自宅
②福祉サービス利用（自主防災会と息子へ連絡する）
③息子宅（自主防災会へ連絡する）

【振り返りの会】

防災訓練の後、防災会・民生委員・福祉専門職・行政とで振り返りの会を行いました。
避難の様子についての情報共有と、個別避難計画の修正について確認しました。
また、個別避難計画作成に参画した感想や今後の取組について話し合いました。

♪今回の取組について良かったこと♪

- ・避難支援体制ができたこと
- ・今まで地域への関わりが少なかった人が地域とつながることができたこと
- ・声をかけてもらえたことで、初めて防災訓練に参加することができたこと
(気になっていたけど、なかなか参加できていなかった)



高坂町防災会（避難支援ネットワーク会議）

地域の主催で避難支援ネットワークを開催

一人の高齢者について心配する近隣の人のがきっかけで、防災会、福祉専門職、警察、消防、社会福祉協議会、行政が集まり、この方の避難行動、避難支援の方法について話し合いました。

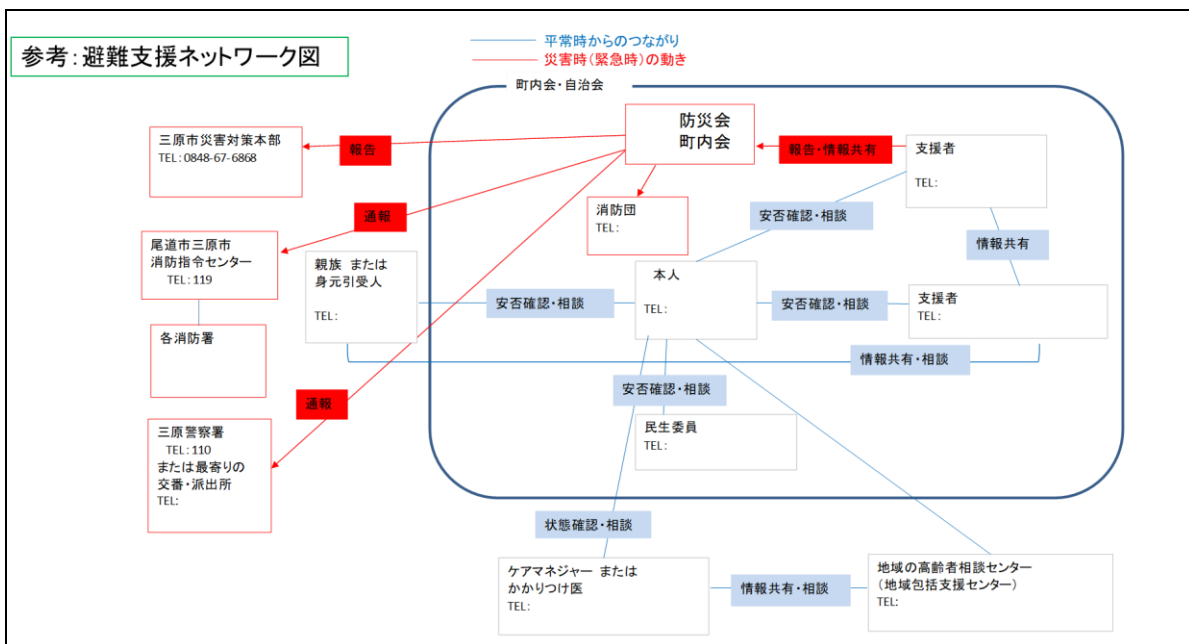


【会議の内容】

- 会議の目的と防災会の体制について
- 個人情報の取扱いの確認
- 本人の身体、生活の状況について
- 支援ネットワーク図の確認
- タイムラインの協議

【話し合った内容】

- ① 支援ネットワーク図として、この方の平常時からの地域や専門職とのつながりや災害時に受けられる支援を図にしました。
- ② 本人・家族、地域、介護サービス・公的援助ができる支援を、平常時、発災前、発災後に分けて書き込んだタイムラインについて協議しました。
- ③ タイムラインでそれぞれの役割を確認して、①の支援ネットワーク図に関係者の連絡先を書き込みました。
「何か行動を起こしたら、必ず次の人に連絡すること」を決めました。



これは、ある支援者の一言から始まった
避難支援体制づくりの物語です。
地域の取り組みの一例としてご覧ください。

わしは避難なんか
せんけえの！

高坂町
誰一人取り残さんけえの！
ものがたり

ひらめいた
防災会長Sさん
市役所の人に
相談しました

こういうこと
なんじゃが、
みんなを集められるかの

分かりました。
声をかけて
みましょう。

Aさん
避難しない
って！

大丈夫
かな

心配だよ

Aさんのために
こんな大勢
の人が集まって
くれたんだ…

避難支援
ネットワーク会議
の始まりです

タイムライン

では、災害時
はこの手順で。
次の人への連絡を
忘れずお願いします。

Aさんは
移動に手助け
が必要です。

避難所へ
来るときは
防災会が
手伝うよ

ケアマネジャー
Kさん

このようにみなさんの話し合いでAさんの支援の方法が決まりました。
誰一人取り残さんけえの！ 地域の取り組みは続きます。

三原ダイヤハイツ自主防災会（要介護の人の避難支援）

避難行動要支援者のうち、要介護の人の避難支援について、担当ケアマネジャーと協力して、避難の検討を行いました。

個別避難計画作成対象者：12人（避難行動要支援者のうち、この地域の同意者名簿に掲載されていて、在宅で生活している要介護1～5の人）

協力した事業所：9事業所

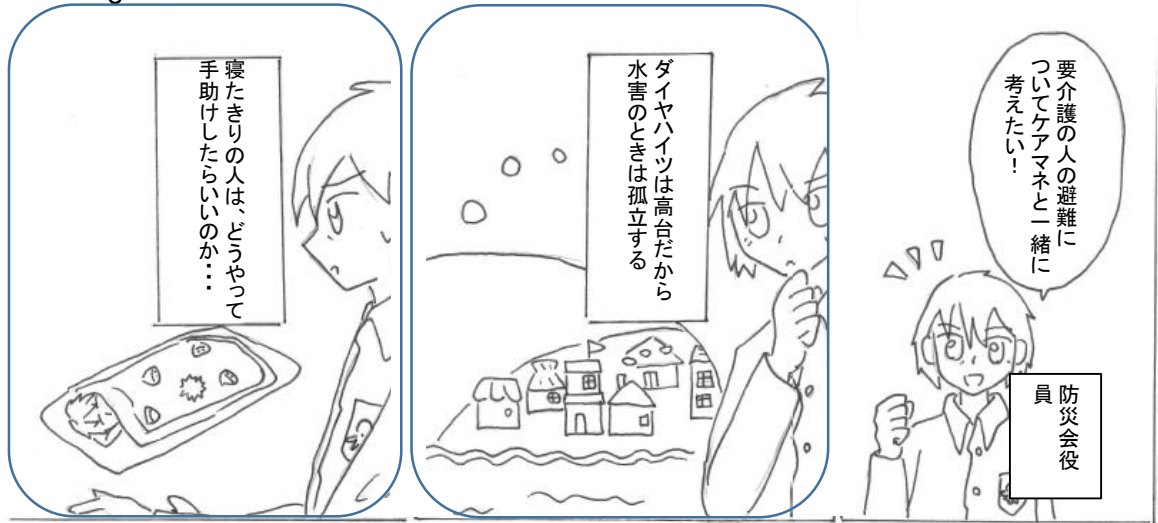
取り組んだ時期：令和3年12月～



【作成の手順】

- ① 同意者名簿に掲載されている人から要介護1～5の人を抽出
（要介護3以上の欄に○がある人のほか、同意者名簿に掲載されている要介護1，2の人を高齢者福祉課で確認）
- ② ①の人の担当ケアマネジャーを確認し、協力依頼（高齢者福祉課から）
- ↓
- ③ 自主防災会と担当ケアマネジャーで、すすめ方の協議
- ↓
- ④ 自主防災会から対象者へ取組のお知らせ
（市からのお知らせ文と自主防災会からのお知らせ文を合わせて配布）
- ⑤ 担当ケアマネジャーから対象者へ、自主防災会と一緒に訪問することの確認
- ↓
- ⑥ 自主防災会と担当ケアマネジャーで対象者を訪問し、災害時の行動や備え、近隣の関わりのある人、緊急連絡先を聞き取り
- ↓
- ⑦ 自主防災会が個別避難計画作成し、対象者の署名をもらう
（自主防災会と担当ケアマネジャーへの情報提供の承諾の確認）
- ↓
- ⑧ 署名入りの個別避難計画を高齢者福祉課へ提出
高齢者福祉課で本人控えと支援者控え（自主防災会と担当ケアマネジャー用）を作成

ダイヤハイツ みんなつながつとるねえ 物語



みんなつながつとるねえ
防災と福祉が協力し合って、ダイヤハイツの挑戦は続きます。

避難支援の優先順位の考え方

同意者名簿に掲載された人のうち、優先的に個別避難計画の作成が必要な人、地域での支援だけでなく専門職の支援が必要な人の考え方について、まとめました。

判定	優先度	自宅の災害リスク	支援	対応
A1	高 ↑	警戒区域・特別警戒区域 浸水想定 50cm以上	家族・地域の支援不可	福祉専門職対応 介護サービス利用または福祉避難所
A2			家族の支援不可	地域による支援 自主避難所、公設避難所
B			家族の支援可	防災チェックシート、マイタイムラインで家族と避難行動の確認
C1	低 ↓	警戒区域外 浸水想定 50cm未満	家族の支援不可 地域のつながりなし	備えの呼びかけと普段から相談できるところを作るように働きかけ
C2			家族の支援可または 地域のつながりあり	備えの呼びかけ

※福祉避難所については、現在、対象者や受入方法について調整中です。

避難先については、利用可能で本人が避難することができそうな場所を検討してください。

	専門職対応	地域対応	家族対応
災害リスク高	A1	A2	B
災害リスク低	C1	C2	

地域で対応可能な人のうち、災害リスクが高い人から、優先的に避難支援について検討します。

左ページの表の「A2」に該当する人から、さらに優先順位や避難支援の方法を検討します。

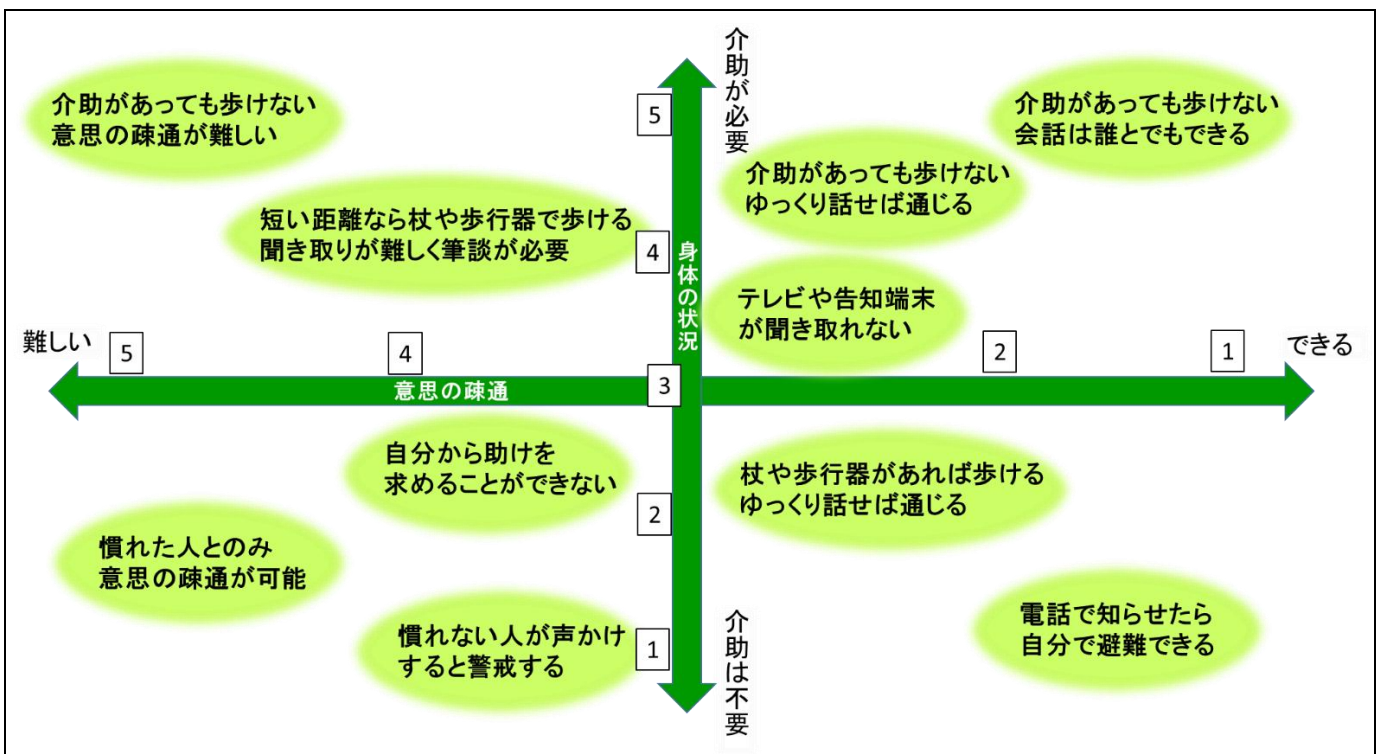
A2の地域による支援の優先順位付けのチェック項目

身体の状態		意思の疎通	
5	介助があっても歩けない 移動の手助けに2人以上必要	5	視力、聴力の低下により、意思の疎通が難しい 慣れた人とのみ意思の疎通が可能
4	短い距離なら歩行器や杖で歩ける 階段は一人では上がれない 歩行すると痛みがある	4	聴力低下により、筆談が必要 視力低下により、言葉による説明が必要 避難の必要があることの理解が難しい
3	歩行が不安定で転倒しやすいが、一人で歩ける 長く歩行すると痛みがある	3	慣れない人が声かけすると警戒する 自分から助けを求めることができない
2	床からの起き上がりが難しい 避難所では椅子やベッドが必要	2	大きめの声で、ゆっくり話すと聞き取れる 大きめの字や分かりやすい色なら読み取れる
1	日常生活に支障なし	1	日常生活に支障なし



一人ずつチェック項目を確認します。その人の該当する点数を下の表にあてはめ、どの枠に当てはまるかで優先順位を決めます。

左上の枠に当てはまる人が、より支援が必要な人になります。



避難支援のためのチェックリスト

【本人や家族で確認すること】

自宅が土砂災害や浸水の被害を受けるおそれがありますか	➡	[被害を受けるおそれがあるときは] 自宅以外の避難先を考えましょう
地震や強風、豪雨などで自宅が壊れるおそれがありますか	➡	[自宅が壊れるおそれがあるときは] 自宅の修理（耐震化）か自宅以外の避難先を考えましょう
自宅以外の場所へ避難する場合、自分で行くことができますか	➡	[自分で行けないときは] 手助けしてほしいことを具体的に伝えましょう
災害時など買い物に行けないときのために、食べ物や飲み物を多めに用意していますか	➡	普段から少し多めに買い置きし、消費した分だけ買い足す「ローリングストック」がおすすめです
避難するときに持っていくものは用意していますか (または、すぐ用意できるようにリストにするなどしていますか)	➡	2泊3日分くらいのお泊りセットなどを普段から用意しておく、急な入院のときにも使えます
親族やかかりつけ医、ケアマネジャーなど緊急時に連絡する先をまとめていますか	➡	他の人に連絡してもらおうときのことを考えて、紙にまとめて書いておきましょう (情報の取り扱いには注意)
ペットがいる場合、非常持出用のペットの餌やケージを用意していますか	➡	ペットを連れて行ける避難先を確認しておきましょう

【地域のみなさんで確認すること】

地域に土砂崩れのおそれがある場所、浸水する場所、過去の災害で被害があった場所など、危険箇所はありますか	➡	[危険箇所があるときは] 警報発令時は近寄らない、避難経路に使わない、など地域で呼びかけましょう
危険箇所の近くに、高齢者や障害者など、自力での避難が心配な人はいますか	➡	[心配な人がいるときは] 避難先を考えているか確認しましょう 地域の人と一緒に避難するなら、どんな手助けが必要か具体的に確認しましょう
災害時の連絡方法を決めていますか	➡	安否確認の方法や、地域の避難場所に行かないときの連絡方法など、あらかじめ決めておくと安心です
地域で備えているものの活用方法は決めていますか	➡	発電機、炊き出し用の道具、衛生用品、土嚢など、地域で備えているものがあれば、有効活用できるように、お知らせしましょう